

Extreme

アスリートの躍動を記録するスポーツ・グラフィックス

〔エクストリームプレス〕
ご自由にお持ちください。

PRESS by AJPS

「冬、舞台」

Vol.4
'11-'12.Winter



無料

**児玉 肇** Takeshi KODAMA

表紙撮影／菅沼 浩 Hiroshi SUGANUMA

夕景の撮影へ、ハイクの途中に見つけた自然にできた
ウインドリップ、絶妙の太陽の位置に、特大のスプレーを
引き連れてビッグジャンプを決めてくれた。

■撮影日：2008年11月26日 ■場所：立山（富山県）
■カメラ：Canon EOS-1D MarkIII ■レンズ：EF70-200mm F2.8L USM
■撮影モード：マニュアル 1/4000 F11 ISO200 ■WB：オート
■メディア：サンディスク エクストリームIV CFカード

CONTENTS

「冬、舞台」

2-3 卷頭エッセイ Vol.4 「冬の記憶」

杉山茂樹 Shigeki SUGIYAMA
撮影／築田 純 Jun TSUKIDA

Moments

4-5 **児玉 肇** Takeshi KODAMA
撮影／菅沼 浩 Hiroshi SUGANUMA

6 **ノルディックジャンプ**
撮影／岸本 勉 Tsutomu KISHIMOTO

7 **高橋大輔** Daisuke TAKAHASHI
撮影／北村大樹 Daiju KITAMURA

8-9 **小塚崇彦** Takaniko KÖZUKA
撮影／田口有史 Yukihiro TAGUCHI

10 **安藤美姫** Miki ANDO
撮影／北村大樹 Daiju KITAMURA

11 **クロスカントリースキー
男子 50km(クラシカル)**
撮影／築田 純 Jun TSUKIDA

12-13 Close Up

菊池沙都 Sato KIKUCHI [SEIBUプリンセスラビッツ]**「アイスホッケーに恋して」**コーディネート／木村 理 Osamu KIMURA
インタビュー／小野哲史 Tetsushi ONO
撮影／荒川雅臣 Masaomi ARAKAWA

14-15 Impression

**サンディスク エクストリームプロ メモリーカード
&イメージメイトオールインワン USB3.0 リーダーインプレ****「撮影にまつわるすべてにおいて超高速！」**

写真ヒント／田中慎一郎 Shinichiro TANAKA

■撮影日：2007年12月22日 ■場所：訓路（北海道）
■カメラ：Canon EOS-1D MarkIII ■レンズ：EF400ミリ F2.8L IS
■撮影モード：マニュアル 1/8000 F5.6 ISO100 ■WB：マニュアル
■メディア：サンディスク エクストリームIV CFカード

「冬の記憶」

杉山茂樹

雪と氷。

冬の舞台は寒い。極端に寒い。

遠く離れた非日常。そこに身を投じれば別人になった気分が味わえる。スキーフィールドではやたら格好良く見えた人が、日常生活に戻ると凡庸な人見えてしまう——とはよくある話だが、競技の舞台にも奇妙な高揚感が漂っている。

日本から遠く離れた極寒の地。

辿り着くまでの道のりが大変であるほど、到着すれば、滅多に味わえない喜びが待ち受けている。そこでプレイする日本人選手の姿が妙に頬もしく映る。成績が少々振るわなくて納得する。

気がつけば感情が入っている。

現場まで、応援に駆けつける日本人のファンは少ない。

まさに非日本的な別世界で孤軍奮闘しているわけだ。そこで彼らが表彰台にでも昇ろうものなら、天にも昇るような幸せ気分に浸ることができる。荻原健司、原田雅彦……。原稿を書くモチベーションは飛躍的に上がる。

寒さと速さとそれに伴う圧倒的なビジュアルと。夏の思い出より脳裏に深く刻まれている。

その一枚一枚の写真に目を凝らしていると「白い恋人たち」のメロディの一節が、ふと耳に優しく舞い込んでくる。グルノーブル五輪の記録映画の世界は、それから40余年経ったいまなお息づいている。

冬の舞台は浪漫チック。

神秘的な魅力に溢れている。





2週間の悪天候が去り、雪質も天気も極上のThe Day。1日中最高の撮影ができる後、山々を真っ赤に染めるマジックアワーが待っていた。至福のときに決めた極上の1枚。

■撮影日：2011年1月27日 ■場所：余市岳(北海道)
■カメラ：Canon EOS-1D Mark IV ■レンズ：EF70~200mm F2.8L USM
■撮影モード：1/1600 F5.6 ISO200 ■WB：日光
■メディア：サンディスク エクストリーム プロ CFカード



選手の表情や体の美しさが表れる一瞬を400mmの望遠レンズで狙う。エキシビション演技では照明による演出が加わり、各選手の表現に変化があって面白い。氷上に写したされる影。シーンで変わるライティング。狙い通り、ジャンプをする瞬間の力強さと美しさを捕らえた。

■撮影日:2011年11月13日 ■場所:真駒内(北海道) ■カメラ:Nikon D3s ■レンズ:AF-S Nikkor 400mm F2.8 G VR
■撮影モード:マニュアル 1/640 F4.0 ISO2500 ■WB:5260K ■メディア:サンディスク エクストリーム プロ CFカード

シャッターを切る指が止まらない。「氷上の表現者」
高橋大輔。天性のリズム感に乗せられて、情感溢れる
演技に魅せられて、楽曲とシンクロしたようにシャッター
を切り続けていた。

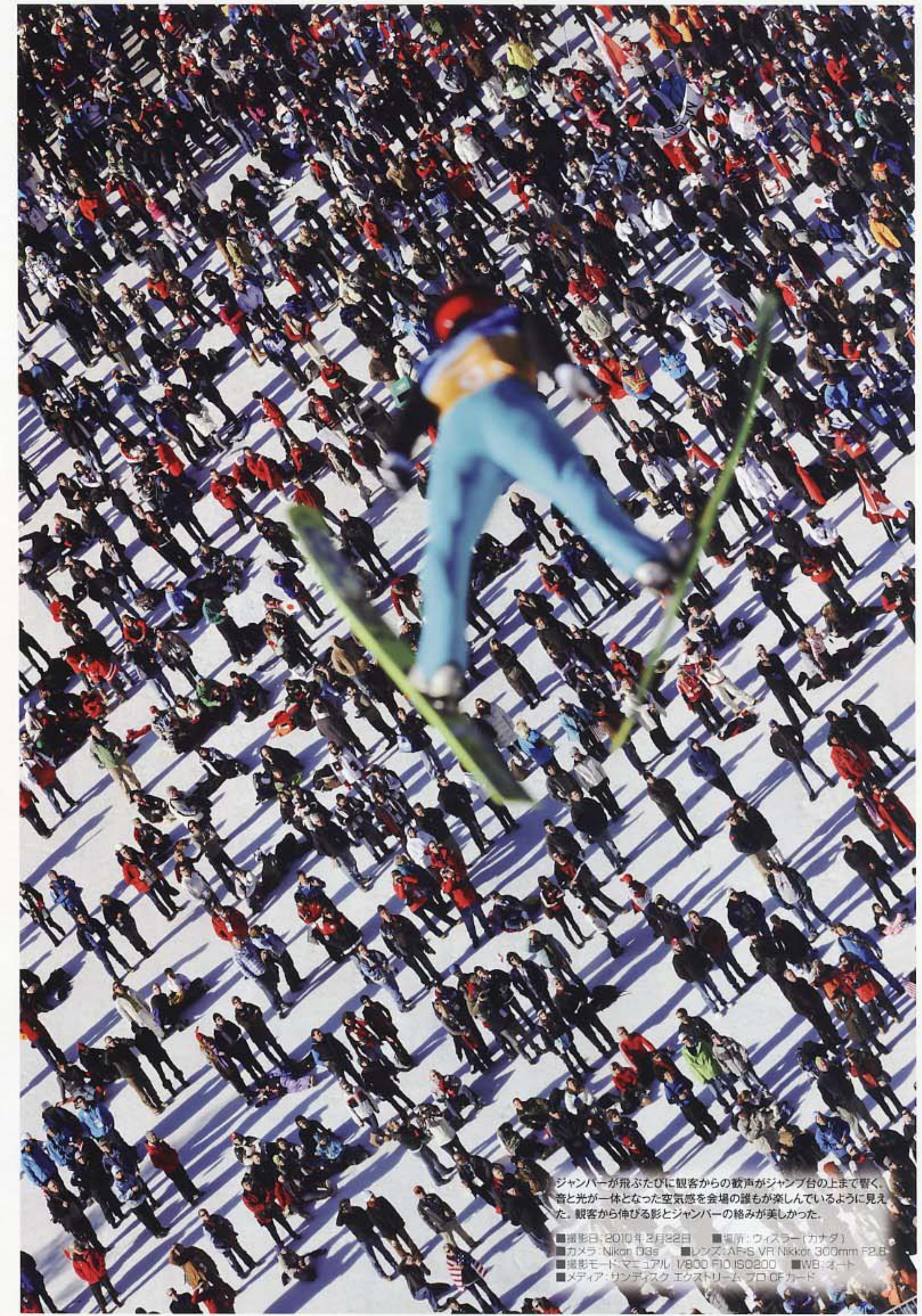
■撮影日:2009年12月26日
■場所:なみはやドーム(大阪)
■カメラ:Canon EOS-1D Mark IV
■レンズ:EF400mm F2.8L IS
■撮影モード:マニュアル 1/1250 F2.8 ISO2000
■WB:マニュアル
■メディア:サンディスク エクストリーム プロ CFカード



“レクイエム”
モーツアルトの鎮魂曲に合わせて舞う彼女の演技は、
競技スポーツの域を超えて、心震わす演舞へと昇華さ
れている。妖艶なる美しさと、力強さを併せ持つ彼女
だけのパフォーマンスに固唾を呑むしかなかった。

■撮影日:2009年12月26日
■場所:なみはやドーム(大阪)
■カメラ:Canon EOS-1D Mark IV
■レンズ:EF400mm F2.8L IS
■撮影モード:マニュアル 1/1000 F2.8 ISO2000
■WB:マニュアル
■メディア:サンディスク エクストリーム プロ CFカード





ジャンパーが飛ぶたびに観客からの歓声がジャンプ台の上まで響く。音と光が一体となった空気感を会場の誰もが楽しんでいるように見えた。観客から伸びる影とジャンパーの絡みが美しかった。

■撮影日：2010年2月22日 ■場所：ウィスラー（カナダ）
■カメラ：Nikon D90 ■レンズ：AF-S VR Nikkor 300mm F2.8
■撮影モード：マニュアル 1/800 F10 ISO200 ■WB：オート
■メディア：サンディスク エクストリーム プロ CFカード



クロスカントリースキーのコースは、山間の自然の地形を生かして作られることが多い。レールのように伸びた溝が真っ白な雪面に描かれていた。遠くから静寂を破る観客の声援が聞こえてくる。荒い息道いの選手たちが集団で滑り去っていく。そしてまた静寂が訪れた。

■撮影日：2007年3月4日 ■場所：札幌（北海道）
■カメラ：Canon EOS 1D MarkⅢN ■レンズ：EF400mm F2.8L IS
■撮影モード：マニュアル 1/800 F5.0 ISO100 ■WB：マニュアル
■メディア：サンディスク エクストリーム N CFカード



アイスホッケーに恋して

SEIBUプリンセスラビッツの中心選手として活躍する菊池沙都。ユニフォームに袖を通し、防具一式を身にまとい、リンクの中に足を踏み入れた途端、笑顔がキュートなごく普通の大学生は、一気にアスリートモードへと切り替わる。女子アイスホッケー界期待のホープが、競技を始めたきっかけからこれまでの競技半生、そして将来の夢を存分に語ってくれた。

＊＊＊
—アイスホッケーとの出会いからお話し下さいただけますか？

「父親が大学生のときに念願だったアイスホッケーを始めて、自分の子供にもやらせたいという想いがあったようです。3歳上の兄が練習に通い始め、私も3歳頃から兄について行くようになりました。本当はフィギュアスケートに憧れていたのですが、両親や兄のクラブの親たちから強く勧められることもあって、自然の流れ

でアイスホッケーに進んでいった感じですね。最初のうちは兄の練習前、一般滑走の時間にスケートを遊び感覚で滑るだけで、6歳ぐらいから西武ホワイトベアーズで本格的に競技を始めました」

—当初は具体的な目標があったのですか？

「小学2年のときに長野五輪があって、家族で観に行ったんです。女子アイスホッケーは長野

大会から正式種目となり、知り合いのお姉さん

が日本代表として試合に出ているのがカッコ

良かった。私がああいうふうになりたいなど。

男子のアメリカ対カナダも観ることができて、会場の雰囲気がすごかったことを覚えていま

す。それ以来、将来の夢を聞かれると『オリン

ピックに出る』しか言わなくなっていました」

—練習で、自分の成長は感じていましたか？

「技術面では、5、6年生になって東京選抜チー

ムに選ばれた時期あたりから、うまくなつて選抜チームに入りたいと、それまで以上に頑張る

ようになりました。合宿でダッシュのときなどは辛くて、もう嫌だと思うこともありました

が、いま振り返るとすごく楽しくて、苦だった

ことは思い出せません。当時からアイスホッ

ケーが好きだったんですね。何よりも優先する

感じで。家族での会話は今もアイスホッケーの

ことばかりです」

—兄の秀治さんもアイスホッケー選手とし

て活躍しています。

「昨シーズンまで東北フリープレイズにいま

たが、所属しているゼビオからの派遣という形

で、今シーズンから中国のチャイナドラゴンで

プレーしています。アイスホッケーのことで悩

んだらまず兄に相談します。兄は私より真面目

な性格なので、私にはちょっとできないかなと

いうことも少なくないんですけどね(笑)。ポ

ジションが私と同じディフェンスでいろいろ

と話も聞けるし、そういう意味では得だと思っ

ています」

■撮影日:2011年11月19日 ■場所:東大和スケートセンター(東京) ■カメラ:Nikon D3 ■レンズ:AF-S NIKKOR 24-70mm F2.8G ED
■撮影モード:マニュアル 1/60 F5.6 ISO800 ■WB:プリセットマニュアル ■メディア:サンディスク エクストリームプロ CFカード

—ディフェンスはいつから？

「ずっとディフェンスです。フォワードは経験したことがありません。パックのキープ力があるわけでもないので、フォワードができないというのもありますけど、これまでやりたいと思ったことはありませんでした。ディフェンスの楽しさは1対1の局面で勝ったときです。後ろにキーパーはいますが、1対1になったら自分しかいないという思いでやっています。得点を決めることに比べれば派手ではありませんが、自分にとってはディフェンスの方がやり甲斐があるかなと」

—チームではどういう役割を担っていますか？

「黙々とやる方ではないので、練習でみんなを盛り上げるタイプでしょうか。あとは年齢差のある先輩と後輩は関わりが少ないこともありますので、その間に入って両者をつなぐ役割もあります。私は大学4年ですし、どちらかと言えば、年齢が下の子をまとめている感じです。後輩と1泊で旅行に行ったりもしますよ。オフの日に行って、翌日の練習まで帰ってくるんです。今まで山梨や日光に行きました」

—普段の一週間の生活でアイスホッケーの占める割合はどのくらい？

「水上と陸上トレーニングがそれぞれ週に3回ずつです。陸上はベンチプレスやスクワットなどの筋トレ、走るトレーニングを夕方5時半ぐらいから9時までみっちりやります。水上はリンクで行う90分の前後にアップやクールダウン

、ミーティング。夜7時に集合して10時すぎに解散することが多いですね。昼間は火曜と木曜が大学、月曜と金曜はランチのお店でアルバイトをしています。大学までが遠いのがちょっと大変ですが、自分で決めた道なので」

—初めて国際試合に出場したのは？

「2006年10月、高校1年のときに、若手主体の日本代表の国際試合で中国のハルビンに行きました。初めて日の丸をつけて臨んだ大会だったので思い入れも強かったです。リンクの上で君が代を聴いたときは嬉しさのあまり、感極まって泣いてしまいました。憧れの選手が同じチームにいることの緊張感や、代表チームのシステムをきちんと理解できていないこともあって、思ったようなプレーはあまりできませんでした」

—海外勢とのレベルの差を感じましたか？

「スピードは日本の方がありました。フィジカル面で大きな差を感じました。私も国内ではフィジカルに自信がある方なのに、それが外国人選手には通用しなかった。でも、それを境にチームに帰ってからは代表経験の豊富な先輩によく聞くようになったし、少しでもうまくなろうと意識の変化があったと思います」

—先ほどは「オリンピック」という話も出ました。それも含めた将来的な目標は？

「オリンピックはもう少し先の目標です。まずは今シーズン目指しているのが、3月の全日本選手権で優勝することです。4連覇を目指してい

た昨シーズンは最終的に2位で終わってしまったので、今回は絶対に勝ちたい、勝つつもりでみんなで頑張っています。それと将来的には子供にアイスホッケーを教えたり、アイスホッケーをたくさんの人に知ってもらう活動もやってみたいですね」

—最後に。ズバリ、アイスホッケーの魅力とは何ですか？

「氷の上で行われることもあり、他の競技にはないようなスケーティングやシュートのスピード感、また、身体と身体がぶつかるボディーコンタクトによる迫力のあるプレーが魅力だと思います。そして、女子アイスホッケーには可愛い選手がたくさんいるので、ヘルメットをとったときの女の子らしい姿のギャップも魅力のひとつです(笑)」

* * *

競技人口の減少、スケートリンクの相次ぐ閉鎖など、アイスホッケー界を取り巻く問題は根深い。しかし、それでもアイスホッケーを心から愛し、プレーを楽しみ、大袈裟に言えば“生きる権”にしている菊池のような選手も存在する。そうした熱い想いを持つ者の輪が少しずつでも広がっていくことが、問題解決の糸口になるに違いない。いつかその日が来ることを信じて、菊池は今日もリンクで懸命に汗を流している。

撮影/赤木真二(2枚とも)



菊池沙都 [きくち さと]
1989年5月18日生まれ 東京都出身
6歳からアイスホッケーを始め、中学卒業と同時にSEIBUプリンセスラビッツに入部。2008年から全日本選手権3連覇。今季は全勝優勝による2年ぶりの日本一を目指す。2005年、中国国際トーナメントで日本代表デビュー。2007年、Air Canada Cup及びU18世界選手権出場。2009年、ユーバーシアード冬季競技大会などに出場。
<http://ameblo.jp/bu-chan30>

イメージメイトオールインワンUSB3.0リーダーは
アメリカ・コロラド州ビーパークリークのプレス
センターで高速性能を存分に発揮した。



サンディスク
エクストリーム プロ
コンパクトフラッシュ カード



■撮影日:2011年12月8日 ■場所:ビーパークリーク(アメリカ) ■カメラ:Canon EOS-1Ds Mark III
■レンズ:EF24-70mm F2.8L USM ■撮影モード:マニュアル 1/125 F2.8 ISO1600 ■WB:オート
■メディア:サンディスク エクストリーム プロ CFカード

サンディスク エクストリームプロ メモリーカード &イメージメイトオールインワンUSB3.0リーダーインプレ

撮影にまつわるすべてにおいて超高速!

田中慎一郎

プロカメラマンの多くが使うサンディスクのメモリーカード。特筆すべき点は3つ、「大容量化」、「高い信頼性」、「高速書込速度」を実現していることです。

私は毎冬、ヨーロッパアルプスを中心に行われるアルペンスキーウールドカップを撮影しています。ときにマイナス10度の中、レースコース上に4~5時間立ち続けますが、防寒対策は万全でも厚手グローブの中の指はかじかみ、メモリーカードの交換作業は億劫です。カード交換は手袋を外して素手で行いますが、カメラの中にエクストリームプロCFカードの64GBを1枚入れておけばその手間もなくなります。大容量のメモリーカードは私がこだわるRAWとJPEGの同時記録でも、1日の撮影で容量不足はありません。メモリーカードの交換は些細なことのようですが、競技中の交換作業の有無は、撮影結果に関わる重要なことです。

私は長年、サンディスクのメモリーカードを継続して使っており、一度もエラーなどのトラブルを経験したことはありませんが、エクストリームプロのSDカードには万一の事態を補うソフト「レスキュープロ」(注)が付いています。試

しに撮影したデータを誤ってカメラで初期化してしまったことにして復旧を試みると、記録されていたデータを無事に回復させることができました。カード自体に万全の信頼はありますが、不測の事態にも備えられているのが心強いところです。

冬期の気温は、屋外はマイナス10度、室内は20度と極端な温度差の環境が多くなります。それでも、私が使用している限り、メモリーカードの動作に支障をきたしたことは一度もありません。急激な温度変化にも対応してくれることは冬期の撮影において、絶対の信頼をおくる要因でもあり、この点はマイナス25度から85度まで対応するエクストリームプロCF/SDカードの特性が発揮される場面と言えます。

そして何より、超高速の書き込みが頼りになります。ナイトレースで高感度の連写時でも、シャッターが途切れることなく、安心してRAW+JPEG同時記録ができるのは大きい強みです。そして、大量撮影後のデータ取り込みに時間がかかる利点もあります。リアルタイムで速報写真が必要とされる昨今、この速さは仕事の効率化につながります。

注)「レスキュープロ」(1年間分)は、エクストリーム・プロSDカードシリーズ(最大95MB/秒のモデル)に付属しています。(2011年12月時点)

Photo by Alessandro Trovati



田中慎一郎[たなか しんいちろう]
1968年東京生まれ 学習院大学経済学部経済学科卒業
毎冬のアルペンスキーウールドカップの撮影を中心に野球、
陸上などスポーツ全般、山岳写真などが主な被写体。
毎年、アルペンスキーウールドカップのシーズンをまとめた
「1/100sec.」を発刊している。
2006年Canonギャラリー銀座、梅田にてアルペンスキーウールドカップ写真展開催。
日本スポーツプレス協会会員、国際スポーツプレス協会会員
HP: <http://www.shinichirotanaka.com>
ブログ: <http://www.plus-blog.sportsnavi.com/shinichiro/>



■撮影日:2011年10月22日 ■場所:セルテン(オーストリア)
■カメラ:Canon EOS 1D Mark IV ■レンズ:EF70-200mm F2.8L IS II USM
■撮影モード:マニュアル 1/2000 F13 ISO100 ■WB:晴天
■メディア:サンディスク エクストリーム プロ CFカード



地球を記録に残したい。



速いメモリーカードは、強い。

メモリーカードは、スピードで選ぶ時代へ。

サンディスクのエクストリームシリーズ

スポーツ写真家たちの原点に迫る!
サンディスク・エクストリーム・チーム
スペシャルサイト公開中
SanDisk × 水谷 章人

サンディスクはプロカメラマンの
82.4%*から『安心のブランド』と評価されました。

*2010年2月当社調べ。詳細は当社Webにてご確認いただけます。<http://www.sandisk.co.jp/leader>



サンディスク エクストリーム® プロ™
SDカードシリーズ
8GB/16GB/32GB/64GB



サンディスク エクストリーム® プロ™
コンパクトフラッシュカード
16GB/32GB/64GB/128GB

発行所・一般社団法人日本スポーツプレス協会 発行人・水谷章人 編集・エクストリームプレス編集委員会
〒112-0013 東京都文京区音羽1-21-10-603 ☎03-3946-9033 <http://www.ajps.jp>

プロの要求に応える、超高速性能&大容量。
Extreme Series
エクストリーム シリーズ

Photo:水谷章人 / 記録メディア:サンディスク エクストリーム® プロ™ コンパクトフラッシュ® カード

「冒険なんて、どこにでもある。」プレゼントキャンペーン

A賞 | 2組4名様

選べる「冒険への扉を開ける旅」
インド、アラスカ、ニュージーランド、トンガから

B賞 | 200名様

サンディスク オリジナル アウトドア
ポーチ(コロンビアスポーツウェア製)

| 応募期間:2011年11月29日(火)~2012年2月29日(水) | スペシャルサイト・キャンペーンの詳細は [サンディスク](http://sandisk-campaign@asakonet.co.jp) キャンペーンのお問い合わせは、サンディスクキャンペーン事務局へ。sandisk-campaign@asakonet.co.jp | 検索

サンディスクはフラッシュメモリーカード世界*・国内**シェアNo.1ブランドです。

* 2010年Gartner調べ (Gartner Dataquest No. GOQ211697 03/25/2011). ** GfK Japan調べ (国内の有力家電量販店販売実績集計 / 2010年). 1. 1メガバイト(MB)=100万バイト、1ギガバイト(GB)=10億バイト。記載された容量の一部はフォーマット及びその他の機能に使用されるため、すべての容量をデータ保存のために使用することはできません。2. 機種によっては、SDXCカードやUHSに対応していない場合があります。詳細は機器のメーカーにお問い合わせください。3. SanDisk、SanDiskロゴ、SanDisk Extreme、サンディスク エクストリーム、SanDisk Extreme Pro、サンディスク エクストリームプロ、及びコンパクトフラッシュは、米国及びその他の国におけるSanDisk Corporationの商標または登録商標です。SDXCのマーク及びロゴはSD-3C LLCの商標です。その他の商標も特定の目的のために使用されるものであり、各権利者によって商標登録されている可能性があります。

